

谷垣 禎

たに がき さだ かず

略歴

昭和20年3月7日生まれ

昭和38年
麻布学園卒業

昭和47年
東京大学 法学部卒業

昭和58年
衆議院議員当選
(連続当選10回)

国務大臣・
科学技術庁長官

国務大臣・
金融再生委員会委員長

国務大臣・
国家公安委員長
産業再生機構担当大臣
食品安全担当大臣

財務大臣
自由民主党政務調査会長

国土交通大臣
を歴任

弁護士

みんなのでやろう 自民党再生

私はこのたびの自民党総裁選挙に立候補することを決意しました。

総選挙に大敗した自民党は、どのように再生するかを必死で模索していかねばなりません。私は、自分ができるところは何かを真剣に考え、わが国と国民の皆さん、わが身を賭して政権奪還をめざす覚悟をいたしました。



一番訴えたいこと

私が訴えたいことは明快です。「みんなのでやろう」です。私たち日本人は、隣人との関わり合いを大切に、皆で支えあって生きていく「絆」の精神を持っています。家族や地域の「絆」を感じながら、「みんなのでやろう」という気持ちと生きがいを持って活動すること。それが社会や経済を支えるすべての源だと考えます。「絆」の中でこそ、一人一人が持っている能力を十分に発揮でき、地域が活性化していくことができます。

総選挙の敗因と反省

今回の総選挙での敗因と反省は、いろいろあります。経済の低迷やセーフティネットのほころびの中で、国民や地域社会の不安の増大に十分応えられなかったこと。私たちの説明が必ずしも十分でなく誤解と混乱を与えたこと。度重なる総裁の交代、党運営をめぐる対立。国民の不安に目を向けず、何をやっていくんだとの強い怒りを招いて自民党が見放されたこと。自民党は、一致団結して国民の皆さんのことをひたすら考えていくという原点に帰らなくてはなりません。そこそこ自民党復活への期待を寄せ下される方々への答えだと信じています。

保守政党のたいせつさを守る

「勝ち組・負け組」といった社会を二極分化の構図でとらえようとする意識や、ことさらに敵を作った対立を煽ったり不満を増幅させたりする風潮が感じられます。対立や不満、誰かのせいにする態度からは何も生まれないのではないのでしょうか。お互いの良さを認め合い、素直に褒めあつて、「みんなのでやろう」の精神で個人個人が本来の力を発揮していく、そうした社会を目指していかなくてはなりません。

自民党は保守政党として、自由を守り、平和を守り、経済の発展をもたらす、歴史、伝統、文化、誇り、そして「絆」を大切に守ってきました。「今日の安心」の上に「より良い明日」をめざした自民党。野党になっても、保守政党としての本質、役割は変わりません。

国会が主戦場、再び政権復帰へ

これから自民党は野党として活動していきます。その役割は、徹底的な政策論争を通じて、与党・民主党の政策をたたきつけていくことにあります。なんでも反対ではなく、建設的な議論をしていきます。同時に、来べき選挙への準備を怠らないことです。政権を担える責任政党としての政策をたたき直していくことです。これまでのしがらみを脱ぎ捨てるチャンスでもあります。

党の組織改革に早急に着手する必要があります。党の政策検討、政策決定のプロセスを強化します。国会論戦が主戦場になるの

世界の動きと国のかたち

世界的な大競争と人口減少社会の到来の中で、資源のないわが国はどうしていいのでしょうか。

やはり、経済の成長なくして繁栄は望めません。グローバル化に伴い、国内で売れるものは海外でも売れるようになってきています。競争力のある分野に、限られた資源を集中的、効率的に投じます。技術革新で最先端を走り続けたい。需要サイドと供給サイドの双方へバランスの取れた政策が必要です。

行き着くところは、「ひと」の力です。「ひと」を育て、「社会」をつくり、それを「国のかたち」につなげていくこと。「個」を尊重しつつ「公」を大切にすることが必要です。「みんなのでやろう」と国民一人一人が覚悟を決めて協調してこそ、経済成長の礎ができるのです。

高齢化社会での格差の拡大に対し、セーフティネットのほころびを直していかねばなりません。社会的弱者を守っていかねばなりません。

引き続き緊密な日米関係が基軸であることは当然です。同時にアジアとの共生が重要です。アジアの成長力をわが国の発展に取り込む必要があります。環境問題や希少資源の活用など、世界との共生を考慮する視点も必要です。外交は冷静な状況分析と徹底した現実主義で対応していかねばなりません。

最後に、三つの約束

私は三つのことを国民の皆さんにお約束したいと思います。

第一 常に国民の皆さんの将来を見据えて、一時の人気取りではない、持続可能な政策を考へようという事です。私たちは、莫大な借金を将来に先送りしながら暮らしています。子供たちの夢を食いつぶしながら生活しています。財源の裏づけのない政策を続けていけば、近い将来、手酷いしっぺ返しを受けることになりま。年金、医療、介護、さらに少子化対策は、財源の問題を切り離すことはできません。受益と負担の関係について、現実を直視しながら、議論する必要があります。

第二 国民の皆さんに、わかりやすく丁寧に、嘘やまやかしてはなく正直に説明をしていくことです。政策にはそのコストがあり、誰かがそれを負担しなければなりません。お金が湧いてくることはありません。将来どうなるのかという納得できる説明がなければ、皆さんも安心して経済活動することはできないでしょう。

第三 地域の不安を正面から受け止め、活性化に取り組むことです。「シャッター通り」の厳しい実情は、いまさら言うまでもありません。健全な地域社会がなければ健全な国家はありません。地域の住民が自ら創意工夫を凝らし、「絆」の中で力を合わせて、魅力と活力のある地域を実現していくことが必要です。人材の発掘育成、魅力の再発見、雇用づくり、国と地方が知恵を出し合い、成功例のノウハウも学びながら、どのような支援が効果的か考えていく必要があります。私は「絆」を大切にしながら、自民党の再生、国民生活を守る私の想いをお伝えしていきたいと思ひます。どうか、皆さんのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。